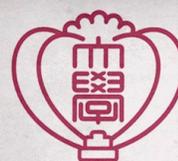


KPU NEWS



社会を動かす薬学へ。
京都薬科大学
KYOTO PHARMACEUTICAL UNIVERSITY

No. 202 July, 2020

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）禍中において ～2020年度6月オリエンテーションを終えて～

学長 後藤 直正

在学生、保護者、本学関係者、全職員の皆様にはCOVID-19禍への対応策に多大なご協力を戴き心より感謝申し上げます。

さて、いまから思えば、中国・武漢で2019年12月に新型感染症の発生が報じられたものの、対岸の火事という認識しかありませんでした。年が明け、2月になり、本感染症の日本での伝播・拡大が懸念されるようになりました。それに対応するために本学では2月19日に第1回の危機管理対策本部会議が開催されました。その後、全世界にCOVID-19が拡大し、わが国でも感染爆発が懸念される状況となり、現在まで7回の同本部会議と4回の職員全体会議で休校措置、卒業式・入学式の中止等の対策を検討し、実行して参りました。ゴールデンウィーク期間に求められた行動自粛が功を奏したことから全国的な非常事態宣言が解除されました。5月下旬に京都府から明示されたガイドラインに応じて作成した「京都薬科大学新型コロナウイルス感染拡大予防マニュアル」に従った感染防止対策を講じたうえで、6月1日から3か月に及ぶ休校措置の解除、そして6月8日より入構制限は継続するものの感染防止策を講じたうえでの実習や演習等の教学プログラムの再開に至りました。

教学プログラムの再開にあたり、学生の皆様には感染防止のための大学からの種々の要請に応じた自粛生活を送り、4月初めより配信したオンデマンド授業へ取り組んだことに敬意を表すこと、さらにはCOVID-19の再燃防止のための“新たな生活様式”の実践を促すこと、教務・学生関係の重要事項を伝えたいことなどから、6月2日より5日まで、密閉、密集、密接を避けるために5年次を除く各学年を3グループに分け、計15回のオリエンテーションを実施致しました。その4日間で感じましたことは、2年次生以上では久々に入構でき、友人と会えたこと、対面で話を聞いたことなどに喜びを感じている様子であるものの、1年次生は、友人を作る機会もなく、寂しさを感じていることでした。しかし、若い息吹ですぐに友人の輪ができるものと期待しておりますし、また新しい授業形態の実施で私たちも多くのことを学びました。

オリエンテーションの実施にあたり、事前準備、通学路や学内での誘導、学生相談員面談及び消毒作業などに全職員ならびに関係者の皆様には多大なご協力を戴きました。お陰様で学生も8日から新たな気持ちで勉学に励むことができるものと信じております。これも含め、皆様のご尽力に心より感謝申し上げます。

現在の状況はCOVID-19が収束したということではなく、小康状態であるのかもしれませんが。日本特有の自粛要請に従った行動によって新規感染者の発生はかなり抑制できた状態にあります。しかし、かつてのような生

CONTENTS

■ 特集

新型コロナウイルス感染症への対応について…………… 8

■ ご挨拶

就任・新任・昇任のご挨拶…………… 2

■ お知らせ

人事…………… 7
生涯教育センターからのお知らせ…………… 11
Library News…………… 14
AIの活用で在学生、受験生の皆さんを24時間サポートします！…………… 16
2021年度 京都薬科大学入学試験について（概要）…………… 17
2021年度 大学院入学選考概要…………… 18
京薬会だより…………… 21
お知らせ…………… 21

■ コラム

卒業生からのメッセージ…………… 14
水中でぶつぶつ…………… 15

■ 報告

【寄稿】2019年度ドイツ薬局研修 at Central Apotheke体験談…………… 12
【寄稿】カンボジアでの医療ボランティア…………… 16
令和2年度科学研究費助成事業 採択状況…………… 20
受賞・掲載…………… 22
京都薬科大学奨学寄付金芳名録…………… 24

活様式に戻ることによって感染が再燃する可能性は十分にあります。人類は感染症の歴史とともに歩み、過去に何度もパンデミックを経験してきました。その都度、感染症を撲滅してきたということではありません。人類が科学技術を磨き、文化を発展させながらも、撲滅できた感染症は唯一「天然痘」だけなのです。縄文時代の人骨に結核から脊椎カリエスに至った痕跡が発見されています。私たちは結核を撲滅したわけではなく、ときおり起こる感染拡大を制御し、その防止法の知恵を身につけたのです。それ以外にも私たちが暮らす環境には多種多様な病原体が存在しますが、それらを恐れて撲滅に全エネルギーを投入することはできません。最近、「with コロナ（コロナとともに）」という標語が作られました。感染拡大の渦中では「Fighting to コロナ」であるべきですが、少なくとも小康状態であるいま、SARS-CoV-2の存在を認識し、その感染を避ける“新生活様式”の実践が第一ではないでしょうか。そのためには習慣を変える必要もあります。慣れ親しんだ習慣を捨てることには大きな抵抗を覚えますが、かつてパンデミックごとに祖先は文化を変えてきたそうです。重ねて申し上げます。小康状態のいま、治療薬やワクチンの開発を行うと同時に、今の状態を維持する“感染予防の心構えと行動”が必要なのではないでしょうか。

就任のご挨拶



副学長

特任教員 赤路 健一

本年4月1日付で本学副学長を拝命いたしました。私は本年3月末に本学を定年退職するまでの4年間、副学長として後藤学長の指示の下、本学業務に携わってきました。何とか務めてこられたのは本学教職員の皆様と研究室のスタッフのご協力のおかげだとしみじみ感じております。あらためて御礼申し上げます。

本年4月より後藤学長が2期目の学長職を務められるに際し、学長が掲げておられる本学の新たなビジョンを実現すべく副学長として引き続き尽力させていただくことになりました。後藤学長をはじめ歴

代学長先生方が整備されてこられた薬学6年制教育制度は10年以上を経てしっかり定着してきたと思います。確かに安定状態ではありますが、次の10年を見据えた新たな展開が必要な時期に来ているのではないかと感じております。さらに、18歳人口の減少と新設薬学部を増加というこれまで経験したことのない環境変化の影響が目に見える形で現れて来つつあります。このような環境変化の中でも、質の高い学生さんを受け入れ高度な教育を実践することで指導的薬剤師を輩出するという本学の使命を変わず進めていかなければなりません。“懸命に走っていなければ同じ場所にはとどまれない”といわれます。どこまでできるか大変心もとない状況ですが、少しでも目標に近づくため精一杯の努力をさせていただく所存です。卒業生の皆様、理事長・理事の諸先輩、そして教職員の皆様のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。なにとぞよろしくお願い申し上げます。



研究科長

教授 齋藤 博幸

この度、本年4月1日付で研究科長を拝命いたしました。私は、平成17年から神戸薬科大学薬品物理化学研究室の教授として、また平成22年からは徳島大学薬学部製剤分子設計学分野の教授として、薬学での教育・研究に携わり、平成28年に本学薬品物理化学分野の教授として着任いたしました。前任の赤路副学長・研究科長から大役を引き継ぐことになり身の引き締まる思いですが、皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、この原稿を書いている現在、新型コロナウイルスに関する全国緊急事態宣言が5月末まで延長されることが決まり、本学での全学休校措置も延長される状況になっています。5月初めの時点では、大学院での教育・研究カリキュラムの多くが実施でき

ず、学生諸氏の研究活動も大きく制限されるなど、本学大学院での教育目的である「高度な学識と研究能力を有する人材の育成」にも多大な影響を及ぼしつつあります。このような困難な状況下で、如何にして学生の研究マインドを醸成し、研究活動を維持・活性化していくのか、我々教員の力が試されていると思います。

本学では、薬学6年制移行後の大学院博士課程への進学者数がほぼ毎年定員を満たし、既に多くの4年制博士課程を修了、学位を取得した人材を輩出してきました。しかしながら、まだまだ多数の学部生が、研究を通して学際的知識や科学的思考力を獲得することの重要性を理解せずに卒業しているのが実情ではないかと思えます。現在、大きな社会変革が急激に起きつつある中で、柔軟で多様な価値観を有し、卓越した科学的思考力・研究力を備えた人材の育成がますます重要になってくると考えられます。未来の薬学を牽引する人材の育成を目指して、微力ながら力を尽くしていく所存ですので、皆様のご指導・ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。



教務部長

さかえだ としゆき
教授 栄田 敏之

本年4月1日付で教務部長を拝命いたしました。二期目となります。教務部、教務課の教職員の方々とともにその役目を果たす所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、就任にあたって、学生の皆さんには、本学での学びがどのようなものか、どのような素養を身につけてほしいと考えているか、をお伝えしたいと思います。

本学は高度の教育及び学術研究機関として、薬学の教育及び研究を推進することにより、生命の尊厳を基盤として人類の健康と福祉に貢献することを教育理念としています。また、本学における教育は、医療・創薬・生命科学に関する幅広い専門知識に基づいた思考力と行動力、さらには豊かな教養と生命の尊厳を踏まえた高い倫理観を伴う人間性を兼備し

た薬剤師に必要な能力を身につけ、臨床領域をはじめ、創薬科学領域、学術・教育領域、保健・衛生領域等、多様な領域において活躍できる人材を育成することを目的としています。すなわち、基礎薬学及び臨床薬学の知識・技術を統合的に活用し、また、さまざまな場面で思考・実証し、一方で、他者の多様性に対応し、他職種と協働できる素養を身につけてほしいと考えています。そのため多くの講義、実習、演習科目がありますが、それらは互いに独立したのではなく、身につけてほしい素養の修得のため、連関性を持たせています。これらはホームページ等に載せています。是非とも読んでほしいと思います。

医療を取り巻く環境は日々変化しています。近未来の医療の態様に関してはまだまだ推測の域を出ませんが、それがどのようなものでも、医療に必要な基本的な素養は、換言すると、問題を見つけ解決する力、伝える力、思いやる心、だと思えます。皆さんにはその素養を身につける能力があると確信しています。在学中はもちろんのこと、卒後も継続して、自己研鑽に努めてほしいと思います。頑張ってください。応援します。



学生部長

うわの よしお
教授 上野 嘉夫

本年4月1日付けで2期目の学生部長を拝命いたしました。学生部委員会と学生課の教職員の方々と緊密に協力して、前任期より役目を一層務めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

いささか抽象的な言い回しですが、「大学とは『学びの場』である」ことに、ご異論はなかりょうと思えます。本学は、「医療に関わる多様な領域で活躍できるように、専門性と人間性を涵養する」ように教育プログラムを構成しています。人間性に関しては、「教室内の学び」だけで涵養することが難しいと気付かれると思います。課外活動、友人との交流、アルバイトやボランティアなど、教室外での生活もまた人間性を養う機会です。これら教室内外のすべてが学生生活です。

就任に際しまして、少し古い記事になりましたが、Frances Bridgesが「大学で身に付け維持すべき5つの良い習慣（邦訳）」で挙げている‘Focus On Yourself’を紹介しましょう。日本版では「自分自身に焦点を当てる」です。記事では、より具体的に「自分の興味を追求し、自分で自分の面倒を見ること。」と続きます。1年次生のみなさんであれば、

「興味」から「趣味」、「課外活動」あるいは「好きな科目」などを、「自分で自分の面倒を見る」から「生活習慣」などを連想されるでしょう。正解はありません。自身が「ここからかな」と思うことから始めてみてはいかがでしょうか。

‘Focus On Yourself’の実践は、2年次、3年次、4年次と年次進行するにつれて、より深まり、また興味の対象も広がるでしょう。それに伴い、学生生活も充実していくと思います。就職や進学のために活動中の6年次生と医療現場で実習中の5年次生のみなさんは、‘Focus On Yourself’に頷かれるのではないのでしょうか。実習を通じて自分の長所や短所に気付くことや、就職活動に必要な自己分析は、まさに‘Focus On Yourself’です。このように、‘Focus On Yourself’は、「いつ始め、いつ終わる」というものではなく、学生生活の全ステージで、いえ、人生を通じて習慣としていくべきものと思います。ただ、待っているだけでは、学生生活の充実は望めないと思います。その方法は、‘Focus On Yourself’にこだわらなくてもいいです。何かトライしてみませんか。

Frances Bridges, 5 Good Habits To Develop And Maintain In College, Forbes, Aug 30, 2019, 03:21pm EDT; 大学で身に付け維持すべき5つの良い習慣, Forbes JAPAN, 2019/09/15 11:00.



進路支援部長

教授 加藤 伸一

本年4月より安井裕之教授の後任として進路支援部長を拝命いたしました。進路支援部委員会ならびに進路支援課の教職員の方々と協力して役目を果たしてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

皆さんもご存じの通り、本学の卒業後の進路は、企業、病院、薬局、その他公務員や大学院進学など多岐にわたります。特に本学の卒業後の進路の特徴は、企業、病院、薬局のそれぞれが約3割となっており、このことは、皆さんには進路選択に様々なチャンスがあることを示しています。それゆえ、どの進路を選択するかについて皆さんも大いに悩むところかと思えます。

希望する進路に進むためには、十分な準備が必要です。したがって、できるだけ早い時期に進路を決め、それに向けた準備を早くから始めることが重要になってきます。本来希望する進路を難易度や競争率が高い、就職活動が大変などの理由から、挑戦する前から

諦めて、妥協して安易に進路を決めることはしないでください。皆さんには多くの可能性とチャンスがあります。これまで過ごしてきた時間よりもはるかに長い時間が卒業後には待っています。様々な職種についてよく調べ、深く知り、自分になりたい将来像を描き、前進思考で納得のいく希望する進路を見つけてください。そしてその実現に向けて、しっかりと準備をして、強い意思で挑戦してほしいと願っています。

また、新型コロナウイルス禍により、今後はこれまでは就職活動の様式も大きく変化してくることが予想されます。そのような状況下でも、臨機応変にその変化に対応できる能力も重要になってきます。

進路支援部では、企業や病院・薬局の合同説明会をはじめ、セミナーやガイダンスなどの皆さんの進路の選択に役立つ様々なキャリア支援プログラムを用意しています。また、履歴書やエントリーシート作成のアドバイス、面接対策など、その進路へ向けての準備、実際の就職活動のサポートなどを進路支援課の職員と共に行っています。さらに、進路支援課では皆さんの進路選択や就職活動に役立つ多くの有益な情報を提供しています。将来の希望する進路の実現に向けて、これらを大いに活用し頑張してほしいと思います。全力でサポートしていきます。

新任のご挨拶



創薬科学系 薬品化学分野

教授 大石 真也

2020年4月1日付で、創薬科学系・薬品化学分野の教授を拝命いたしました。私は、1998年に京都大学薬学部を卒業後、同大学院薬学研究科にて藤井信孝教授（現名誉教授）のご指導のもと創薬化学に関する研究に従事し、2003年に博士（薬学）の学位を取得しました。その後、米国国立がん研究所への留学の機会に恵まれ、抗がん剤の合成や生体分子の修飾

技術の開発に関する研究に取り組みました。2004年からは静岡県立大学、2006年からは京都大学において、いずれも医薬シーズの探索技術の開発や生物活性化合物の創製研究に従事してきました。

私は、薬学部入学前は、臨床で活躍する薬剤師を志しておりましたが、大学での学びや経験を通して、生物活性を示す化合物を自分自身が作り出す研究の楽しさを知りました。こうした創薬研究を通して見出されてきた医薬品の価値や魅力を多くの方と共有したいと考え、これまで薬学の教育と研究に取り組んできました。浅学の身ではございますが、本学の発展のために尽力してまいりたいと存じますので、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



創薬科学系 薬化学分野

准教授 小林 祐輔

令和2年4月1日より薬化学分野に着任いたしました。私は平成14年に京都大学薬学部を卒業後、同大学院薬学研究科に進学し、竹本佳司教授（薬品分子化学分野）のもと博士（薬学）の学位を取得しました。米国カリフォルニア大学バークレー校博士研究員を経て、平成20年より徳島文理大学香川薬学部助教、平成22年より武庫川女子大学薬学部助教、平成

24年より京都大学薬学部助教、平成31年より同講師として有機化学の教育・研究に携わってきました。

これまでにアスパラギン側鎖の直截的な糖鎖修飾を可能にする触媒を見出しています。本学では、さらに高活性な触媒や試薬を開発し、医薬品シーズ創出へ繋げたいと考えています。もともと予期しなかった反応で見つかった触媒ではありますが、これまで誰も知らなかった化合物や現象に巡り合えるのは実験科学の醍醐味であり、研究活動を通じた教育は大学の使命だと考えています。講義や研究を通じて、ファーマシスト・サイエンティストの育成に微力ながら貢献したいと考えています。ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



生命薬科学系
細胞生物学分野

講師 関根 勇一

2020年4月1日付で細胞生物学分野の講師として着任致しました。私は2003年に北海道大学薬学部を卒業後、2004年に同大学院薬学研究科衛生化学分野・松田正教授の研究室で助手として採用され、免疫系や癌細胞のシグナル伝達について研究を行いました。2008年に北海道大学にて博士号（薬学）を取得

後、助教として引き続き教育・研究に従事し、2011年にアメリカYale大学医学部に日本学術振興会海外特別研究員として留学し、脊髄損傷モデルにおける神経再生について研究を行いました。その後、Postdoctoral Associate、Associate Research Scientistとして研究を続け、2019年に和歌山県立医科大学医学部・解剖学第二講座に助教として着任いたしました。

約10年ぶりに薬学部の教育現場に戻って参り、戸惑うこともいろいろとあると思いますが、海外や医学部での経験を本学の薬学教育・研究に生かせるよう努力していきたいと思っております。皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



基礎科学系
一般教育分野

講師 岩崎 大輔

2020年4月1日付で基礎科学系一般教育分野に講師として着任いたしました。私は1997年3月に上智大学文学部ドイツ文学科を卒業後、同大学院博士前期課程文学研究科ドイツ文学専攻修了、同大学院博士後期課程文学研究科ドイツ文学専攻を単位取得満期退学いたしました。その後非常勤講師として首都圏の

複数の大学や高校にて授業を行い、2015年4月より上智大学言語教育研究センターのドイツ語嘱託講師に着任し、ドイツ語教育に携わってきました。

研究領域はドイツ文学、特に18世紀後半の思想家ヨーハン・ゴットフリート・ヘルダーの思想を研究対象とし、現在は彼の再生思想の考察を続けています。その他ドイツ語教授法についても研究し、授業内で実践、検討することで学習者にとっての効果的な外国語学習方法の開発に取り組んでいます。

本学ではこれまでの教育実績、研究を活かし、豊かな人間性を備え、様々な分野で活躍できる人材の育成に尽力する所存です。皆様からのご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



病態薬科学系
薬物治療学分野

助教 安田 浩之

2020年4月1日付で薬物治療学分野の助教に着任いたしました。私は2012年に岐阜薬科大学卒業後、同大学大学院へ進学し、臨床薬剤学研究室の足立哲夫教授（現岐阜薬科大学副学長）のご指導の下、2016年に博士（薬学）の学位を取得しました。その後、

鈴鹿医療科学大学薬学部薬学科 生物系薬学助手として医化学研究室の佐藤英介教授のご指導の下、教育・研究に関わっておりました。

これまで「酸化ストレス」「エピジェネティクス」を中心に、糖尿病病態における抗酸化酵素の発現や好中球細胞外トラップと呼ばれる好中球の細胞死メカニズムの研究に携わって参りました。これからは細胞レベルから個体レベルにアプローチを変え、またこれまでの経験を活かしながら今後の研究を進めていき、研究を通して学生の研究マインドを育てていきたいと考えております。皆様からのご指導・ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



生命薬科学系
衛生化学分野

もりと かつや
助教 森戸 克弥

2020年4月1日付で衛生化学分野の助教に着任いたしました。私は2014年3月に徳島大学薬学部薬学科を卒業し、3年間某製薬企業での勤務を経験しました。その後、徳島大学大学院薬科学教育部博士後期課程へと再入学し、2020年3月に博士（薬科学）の学位を取得しました。

学部、大学院ともに衛生薬学分野（学部時代は徳村彰教授、大学院時代は小暮健太朗教授が主宰）にて田中保准教授（現徳島大学生物資源産業学部教授）に主にご指導いただき、生体内に存在する生理活性脂質の病態生理学的役割に関する研究を行って参りました。伝統ある本学で研究者人生を始められることに喜びを覚えるとともに、教員である自覚を持って行動しなければと感じています。教育者としてはもちろんのこと、研究者としてもまだまだ未熟ですが、学生の成長や本学の発展に貢献できるよう尽力する所存ですので、今後とも皆様からのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



薬学教育系
教育研究総合センター
学生実習支援センター

かなせ ゆき
助教 金瀬 薫

2020年4月1日付で、学生実習支援センターの助教に着任いたしました。私は、2016年に帝京大学薬学部を卒業後、2020年に同大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程を修了し、学位を取得しました。

薬学では様々な分野を広く学びます。学んだ知識は、それぞれが独立しているのではなく、分野同士がつながっており、各分野を統合させ使いこなす能

力を持つことが大切だと考えます。そのため、学生実習や実験を通じて、講義で学んだ幅広い知識をもとに実際に自分で手を動かし、考えながら行うことで、知識を深め、更には問題解決能力を身に付けることが出来ると思います。また、実習を通じて実験や研究の楽しさを知ってもらい、社会を動かす薬剤師の育成にも貢献したいと考えております。

私のこれまでの経験を活かし、本学における薬学教育の発展に微力ながら貢献できたらと考えております。皆様のご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



病態薬科学系
薬理学分野

たむら ゆうほ
助手 田村 裕穂

この度2020年4月1日付で病態薬科学系薬理学分野の助手に着任いたしました田村裕穂と申します。

私は、2011年3月に京都大学薬学部薬科学科を卒業した後、同大学大学院薬学研究科に進学、修士課程を修了し、博士後期課程在籍中にご縁があり本学に加えていただくことになりました。学部・大学院ともに、神経機能制御学分野(根岸学教授主宰)にて加

藤裕教准教授に主にご指導いただき、これまで、脳腫瘍における細胞増殖制御に関わるシグナル伝達系に着目し、研究を行って参りました。

まだ明らかになっていない生命現象のメカニズムを、研究を通じて解明していくことの面白さ・楽しさを学生に伝えていくことができると考えております。また、本学の教育理念である、ファーマシスト・サイエンティストの育成のためにできることは何か日々考えながら、薬学教育に貢献できるよう、自身も成長していきたいと思っております。皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

昇任のご挨拶



分析薬科学系
薬品分析学分野

教授 武上 茂彦

令和2年4月1日付で教授に昇任し、薬品分析学分野の主任を拝命いたしました。私は平成9年に本学大学院博士前期(修士)課程を修了後、同年に本学薬品分析学教室(現薬品分析学分野)の助手に就任し、当時教室主任の北村桂介教授のご指導の下、平成18年に博士(薬学)号を本学にて取得いたしました。その後、薬品分析学分野主任を引き継がれた北出達

也教授のご指導の下、助教、講師、准教授として本学の学部・大学院教育に携わってまいりました。また、2014年4月から1年間、ドイツ・レーゲンスブルク大学に留学の機会もいただきました。

さて、「台湾近代化の父」と言われ、医師・政治家でもある後藤新平は、「財を遺すは下、事業を遺すは中、人を遺すは上なり」という言葉を残しています。教育という最高の使命にこれからより深く携われることを喜びに感じると同時に、京都薬科大学の発展のみならず社会に貢献しなければならないという重責を感じております。今後とも皆様からのご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

任命

学長 後藤 直正
(任期：2020.4.1～2022.3.31)
副学長 赤路 健一
(任期：2020.4.1～2022.3.31)

採用

創薬科学系 薬品化学分野 教授 大石 真也
(任期：2020.4.1～2030.3.31)
創薬科学系 薬化学分野 准教授 小林 祐輔
生命薬科学系 細胞生物学分野 講師 関根 勇一
基礎科学系 一般教育分野 講師 岩崎 大輔
病態薬科学系 薬物治療学分野 助教 安田 浩之
生命薬科学系 衛生化学分野 助教 森戸 克弥
薬学教育系 教育研究総合センター
学生実習支援センター 助教 金瀬 薫
病態薬科学系 薬理学分野 助手 田村 裕徳
(以上任期：2020.4.1～2025.3.31)
薬学教育系 教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター 特命教授 澤崎 高志
(契約期間：2020.4.1～2021.3.31)

昇任

分析薬科学系 薬品分析学分野 教授 武上 茂彦
(2020.4.1付)

再任

分析薬科学系 代謝分析学分野 准教授 木村 寛之
基礎科学系 一般教育分野 准教授 坂本 尚志
薬学教育系 教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター 講師 今西 孝至
薬学教育系 教育研究総合センター
薬学教育研究センター 講師 開 章宏
生命薬科学系 生化学分野 助教 齊藤 洋平
薬学教育系 教育研究総合センター
薬学教育研究センター 助教 吉村 典久
(以上任期：2020.4.1～2025.3.31)

配置換

事務局実務・生涯教育課 主事 北田 彩
(前 事務局教務課)
事務局実務・生涯教育課 主事 杉本 明子
(前 事務局企画・広報課)
事務局施設課 主事 津岡 実穂
(前 事務局教務課)
事務局教務課 事務員 永島真由実
(前 事務局進路支援課)
(以上2020.4.1付)

兼務解除

事務局企画・広報課 主事 杉本 明子
生涯教育センター兼務
(2020.3.31付)

任命

研究科長 薬品物理化学分野 教授 斎藤 博幸
教務部長 薬物動態学分野 教授 栄田 敏之
学生部長 数学分野 教授 上野 嘉夫
進路支援部長 薬物治療学分野 教授 加藤 伸一
図書館長 臨床薬学分野 教授 西口 工司
教育研究総合センター所長 副学長 赤路 健一
バイオサイエンス研究センター長
薬物治療学分野 教授 加藤 伸一
薬学教育研究センター長
薬学教育研究センター 教授 細井 信造
情報処理教育研究センター長
情報処理教育研究センター 教授 藤原 洋一
学生実習支援センター長
情報処理教育研究センター 教授 藤原 洋一
生涯教育研究センター長
臨床薬学教育研究センター 教授 楠本 正明
(以上任期：2020.4.1～2022.3.31)
分析薬科学系系長
薬品物理化学分野 教授 斎藤 博幸
統合薬科学系系長 統合薬科学系 教授 高田 和幸
(以上任期：2020.4.1～2022.3.31)
創薬科学系 薬品化学分野主任 教授 大石 真也
分析薬科学系 薬品分析学分野主任 教授 武上 茂彦
(以上2020.4.1付)

兼務

事務局実務・生涯教育課 課長 川勝 章広
(事務局企画・広報課)
(2020.4.1付)

退職

創薬科学系 薬品化学分野 教授 赤路 健一
分析薬科学系 薬品分析学分野 教授 北出 達也
基礎科学系 一般教育分野 准教授 桑形 広司
生命薬科学系 細胞生物学分野 助教 渡部 匡史
生命薬科学系
微生物・感染制御学分野 助教 林 直樹
薬学教育系 教育研究総合センター
学生実習支援センター 助手 千原 佳子
(以上2020.3.31)
薬学教育系 教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター 特命教授 大石 美恵
薬学教育系 教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター 特命教授 田中 久子
事務局施設課 契約事務職員 富永 重夫
(以上2020.3.31契約期間満了)
事務局 理事長特別補佐 契約専門職員 村澤 悟
(2020.5.31契約期間満了)

新型コロナウイルス感染症への対応について



京都薬科大学では、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大を阻止すべく、危機管理対策本部を立ち上げ、教職員が協力しながら様々な対応をしております。今回は本誌においてその一部を紹介いたします。状況は日々変化しているため、最新の情報につきましては本学公式Webサイト (<https://www.kyoto-phu.ac.jp/>) やmanaba掲示板（学生のみ閲覧可能）をご確認ください。

KPU_{NEWS}編集委員長 藤原 洋一

Feature article.

■ 新型コロナウイルス感染症に関する情報の公開について

本学公式Webサイトにて新型コロナウイルス感染症に関する特設ページを設置しております。対応や方針など決定事項につきましては随時お知らせしておりますのでご確認ください。

また、感染予防や自宅でできる運動など本学の教員が監修した動画も配信しております。ぜひご自身の感染予防、健康管理・維持に役立ててください。

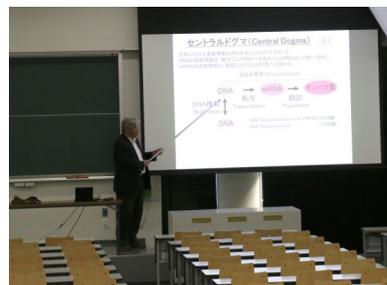


本学公式Webサイト

■ 2020年度前期講義科目のオンデマンド型配信実施

2020年度前期講義科目は原則全てを収録配信（オンデマンド型）にて実施することとなりました。4月配信当初、アクセスの集中で視聴ができないなど、大変ご不便をおかけしました。また、Wi-Fi環境がない、教科書が届かないなど十分な学修環境を提供できない中、学生の皆さんは不安な日々を過ごされたと思います。大変申し訳ありませんでした。

今回の経験を、今後の学修環境の整備に活用していきたいと考えています。



講義収録の様子

■ タブレットの貸し出しについて

前期科目の講義を収録配信する中で、「自宅にパソコンがなくスマートフォンでの講義視聴は不便」「通信機器の故障により講義の受講に支障が出ている」といった声を受け、本学所有のiPad miniを希望者に貸与することを決定しました。5月7日の申請受付開始から2週間で、約60名が利用されました。

■ 今後の授業・試験の日程について

最新の情報はmanabaで確認してください。

2020年度の授業等の日程は、当初予定されていた通りには進みません。また、一度発表された予定についても、新型コロナウイルスの感染状況によっては変更となる可能性があります。ご承知おきください。

■ 新型コロナウイルス感染症緊急支援金

全国に緊急事態宣言が発出され、その期間の延長に伴い、学生の皆さんや学費支弁者の皆さんの経済的困窮が更に深刻になること、オンデマンド型講義受講のための環境整備費が必要になること等が予想されるため、本学では学生の皆さんに「新型コロナウイルス感染症緊急支援金」の給付を決定いたしました。

本学で学びを継続し、将来ファーマシスト・サイエンティストとして医療に貢献する薬剤師となるために本支援策を活用していただければと考えています。

【問合せ先】

京都薬科大学 教務課

*E-mail : kyomu@mb.kyoto-phu.ac.jp

*TEL: 075-595-4613

*FAX : 075-595-4792

■新型コロナウイルス感染症等の影響により授業料等納付が困難となった方へ

新型コロナウイルス感染症の影響により、全国に緊急事態宣言が出されたことに伴い、経済活動が中断し、家計が不安定な状況に晒されているかと思料いたします。

本学では、経済的困窮・家計急変により授業料等の納付が困難となった方へ、下記の制度により支援を行っております。申請にあたっては、各申請要領を確認のうえ、手続きを行ってください。

ご自身がどの制度の申請を行ったらいいか判断が難しい場合や、将来的な授業料の納付に際して不安などがございましたら随時ご相談をお受けしております。学生・保証人に関わらずお気軽に学生課までご相談下さい。

【学部生対象】

(1) 日本学生支援機構 貸与奨学金（緊急・応急採用）【緊急採用】

対象者：家計が急変＋日本学生支援機構の貸与奨学金の受給基準を満たす学生

奨学金額：月額最大64,000円※（第一種）・月額最大140,000円※（第二種）

申請期限：なし（随時）

詳細は、manaba各学年コース→コンテンツ→奨学金→「日本学生支援機構給付奨学生 新規募集（在学採用）について」をご確認下さい。

(2) 日本学生支援機構 給付奨学金＋修学支援新制度における授業料減免【緊急採用】

対象者：家計が急変＋日本学生支援機構の給付奨学金の受給基準を満たす学生

奨学金額：月額最大75,800円※＋授業料減免（前期450,000円＋後期450,000円）

申請期限：なし（随時）

詳細は、manaba各学年コース→コンテンツ→奨学金→「日本学生支援機構給付奨学金（家計急変）について」をご確認下さい。

なお、8～9月ごろに給付奨学金（定期採用）の第2回受付の案内を予定しております。

(3) 京都薬科大学授業料減免制度（経済困窮）

対象者：日本学生支援機構給付奨学金＋修学支援新制度における授業料減免の対象外の学生で、本制度の受給基準を満たす学生

減免金額：900,000円（後期分）

募集時期：9～10月頃公募予定

詳細は、manaba各学年コース→コンテンツ→学生生活→「京都薬科大学授業料減免制度（経済困窮者・家計急変者）について」をご確認下さい。

(4) 京都薬科大学授業料減免制度（家計急変）

対象者：家計が急変したことに加え、日本学生支援機構給付奨学金＋修学支援新制度における授業料減免の対象外の学生で、本制度の受給基準を満たす学生

減免金額：900,000円（後期分）

募集時期：9～10月頃公募予定

詳細は、manaba各学年コース→コンテンツ→学生生活→「京都薬科大学授業料減免制度（経済困窮者・家計急変者）について」をご確認下さい。

(5) 京都薬科大学貸与型奨学金（緊急採用・定期採用）

対象者：（家計が急変＋）京都薬科大学貸与型奨学金の受給資格を満たす学生

奨学金額：最大900,000円（一括）

募集時期：緊急採用は随時・定期採用は10月頃公募予定

詳細は、manaba各学年コース→コンテンツ→奨学金→「京都薬科大学貸与型奨学金（緊急採用）について」をご確認下さい。

(6) 授業料等徴収猶予制度

対象者：通常の納付期日（前期4月30日・後期10月31日）までに授業料の納付が困難で延納を希望する学生

募集時期：後期分は10月頃受付予定

詳細は、manaba各学年コース→コンテンツ→学生生活→「授業料の徴収猶予について」をご確認下さい。

※印の月額については、条件によって変わります。詳細は「奨学金案内」をご確認ください。

【大学院生対象】

- (1) 日本学生支援機構 貸与奨学金（緊急・応急採用）【緊急採用】
対象者：家計が急変＋日本学生支援機構の貸与奨学金の受給基準を満たす学生
奨学金額：月額最大88,000円（第一種：修士課程相当）、月額最大122,000円（第一種：博士課程相当）、
月額最大150,000円（第二種）
募集時期：なし（随時）
詳細は、manaba大学院コース→コンテンツ→奨学金→「日本学生支援機構給付奨学生 新規募集（在学採用）について」をご確認下さい。
- (2) 京都薬科大学授業料減免制度（経済困窮）
対象者：本制度の受給基準を満たす学生
減免金額：350,000円（後期分）
募集時期：後期分は10月頃受付予定
詳細は、manaba各学年コース→コンテンツ→学生生活→「京都薬科大学授業料減免制度（経済困窮者・家計急変者）について」をご確認下さい。
- (3) 京都薬科大学授業料減免制度（家計急変）
対象者：家計が急変＋本制度の受給基準を満たす学生
減免金額：350,000円（後期分）
募集時期：後期分は10月頃受付予定
詳細は、manaba各学年コース→コンテンツ→学生生活→「京都薬科大学授業料減免制度（経済困窮者・家計急変者）について」をご確認下さい。
- (4) 京都薬科大学貸与型奨学金（緊急採用・定期採用）
対象者：（家計が急変＋）京都薬科大学貸与型奨学金の受給資格を満たす学生
奨学金額：最大700,000円（一括）
募集時期：緊急採用は随時・定期採用は10月頃公募予定
詳細は、manaba各学年コース→コンテンツ→奨学金→「京都薬科大学貸与型奨学金（緊急採用）について」をご確認下さい。
- (5) 授業料等徴収猶予制度
対象者：通常の納付期日（前期4月30日・後期10月31日）までに授業料の納付が困難で延納を希望する学生。
募集時期：後期分は10月頃受付予定
詳細は、manaba各学年コース→コンテンツ→学生生活→「授業料の徴収猶予について」をご確認下さい。

【問合せ先】

京都薬科大学 学生課
*E-mail：gakusei@mb.kyoto-phu.ac.jp
*TEL：075-595-4614
*FAX：075-595-4792

■新型コロナウイルス感染症対策で心掛けること

◇リスクはゼロではない

社会生活を送る上で、私達は何らかの感染リスクを背負っています。だからこそ、リスクを許容しながら、重大なリスクは低減し、回避していきましょう。

◇コロナハラスメント防止

「ウイルスによってもたらされる3つの感染症」を知っていますか？

【新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対応する職員のためのサポートガイド：日本赤十字社、2020年3月25日初版】

第1の感染症（生物学的） ウイルスによって引き起こされる「疾病」そのもの

第2の感染症（心理的） 見えないこと、治療法が確立されていないことで強い「不安や恐れ」を感じる

第3の感染症（社会的） 不安や恐怖が「嫌悪・差別・偏見」

感染への不安や恐怖から感染者を糾弾したり、差別することは人々の分断を生みます。無症状でも感染性があり、今や誰もが感染者になりえることを自覚しましょう。

◇冬の感染拡大に備える

6月から感染管理期へ移行していますが、自粛解除によりクラスター発生リスクは高い状態です。

冬には感染者が増加します。過去の歴史からも、感染の2波・3波が予測されるため油断は禁物です。

◇持続的・長期的視野をもつ

ワクチンや有効な治療法確立までは、公衆衛生的な対応で感染拡大を防ぐしかありません。新しい秩序を受け入れ、互いに「感染しない」「感染させない」行動で生活しましょう。

- ・消毒（手指と環境）
- ・換気（密閉対策）
- ・1-2m以上の社会的距離（密集対策）
- ・マスク着用（密接対策）
- ・健康管理

【問合せ先】

京都薬科大学 医務室
 ＊場所：愛学館1F 東側
 ＊開室時間：平日8：45～17：15
 ＊本学学校医：こおり内科医院
 ＊TEL：075-595-4615

News 生涯教育センターからのお知らせ

生涯教育センター

●2020年度「漢方講座」 ※本学職員・学生聴講無料

2020年9月～12月開催予定でしたが、2020年11月～2021年2月開催に変更します。
 日程変更に伴い、プログラム内容にも一部変更があります。

※なお、新型コロナウイルス感染症の収束が予測できない状況のため、今後も開催中止や内容変更の可能性がありますので、最新の情報は生涯教育センターホームページにてご確認ください。

「漢方治療の臨床力を身につけよう」

京都漢方研究会との共催で、漢方治療の基礎から臨床まで4回コースで学びます。今年度は、漢方初心者対象の入門講座を1限目に開講します。漢方の知識や経験のない方の受講も大歓迎です。

＊開催日程：2020年11月8日（日）、12月6日（日）、2021年1月24日（日）、2月14日（日） 10:00～16:00

＊開催場所：京都薬科大学 躬行館3階 T31講義室（予定）

＊定員：100名 ＊受講料：20,000円 ＊認定単位：G24 計12単位（1単位／演題）

＊申込受付期間：2020年9月1日（火）～10月26日（月）

＊プログラム：下表のとおり

開催日	10:00-11:40【基礎】	12:30-14:10【薬物】	14:20-16:00【臨床】
2020年 11月8日 （日）	入門講座『八綱』 末広薬局 京都漢方研究会 理事 高橋 宏和 先生	処方解説（処方名の意味） 大阪大学大学院薬学研究所 招聘教授 谿 忠人 先生	漢方の森の中で迷わないために・・・ 本音で語る第2弾～消化器疾患を例に～ 吉田内科クリニック 院長 吉田 光範 先生
2020年 12月6日 （日）	入門講座『気』 末広薬局 京都漢方研究会 理事 高橋 宏和 先生	生薬の選品と鑑別 株式会社榊本天海堂 医専部 課長 宮嶋 雅也 先生	更年期疾患における漢方の役割と活用法 大阪医科大学健康科学クリニック 教授 後山 尚久 先生
2021年 1月24日 （日）	入門講座『血・水』 末広薬局 京都漢方研究会 理事 高橋 宏和 先生	精神科領域で処方される 漢方薬の服薬指導 グッドファーマシー株式会社 あおぞら薬局 藤沢店 成井 繁 先生	足は第二の心臓： 漢方を中心に足を識る・診る・治す ふくおかクリニック 院長 福岡 正平 先生
2021年 2月14日 （日）	入門講座『四診』 末広薬局 京都漢方研究会 理事 高橋 宏和 先生	漢方薬・生薬の現代薬理学的解明(仮) 京都薬科大学 生薬学分野 教授 松田 久司 先生	中医弁証論治の応用(仮) 木村漢方薬局 木村 勇 先生

●申込方法

生涯教育センターホームページよりお申込みください。（URL：<https://skc.kyoto-phu.ac.jp/>）

本学職員・学生はメールにてお申込みをお願いします。（Email：s-center@mb.kyoto-phu.ac.jp）

■問合せ先

京都薬科大学 事務局 実務・生涯教育課
 ＊E-mail：s-center@mb.kyoto-phu.ac.jp
 ＊TEL：075-595-4677（平日9:00～16:00）
 ＊FAX：075-595-4792



生涯教育センター
トップページ



2020漢方講座
申込ページ

■ドイツ薬局研修参加学生を引率して

2月18日（火）～2月29日（土）にドイツ・ロッテンブルク（アムネッカー）の薬局で5年次生の学生が研修をおこないました。実施した研修内容と研修に参加した学生の体験記をお届けします。

本研修は、ドイツで薬剤師としてご活躍中のアッセンハイマー慶子先生が開設されているセントラル薬局（Central Apotheke）にて実施されました。本研修の目的は、“医薬分業”発祥の国ドイツで、日本とは全く異なる医療制度を学び、健康サポート薬局・かかりつけ薬剤師とは実際にどのようなものなのかを体験することにより、自分の理想とする薬剤師像を思い描く一つのきっかけにしてもらうことです。

第2回目の研修となる今回は、9名の5年次生が参加してくれました。研修の主なスケジュールは次の通りです。9名は3名ずつの3グループに分かれ、アッセンハイマー慶子先生、ドイツ人薬剤師、ドイツ人PTA（Pharmazeutisch-Technische Assistenten；薬学技術アシスタントの略 PTAは薬剤師と共に処方箋業務にあたる）の指導の下、①薬局業務一般（処方薬の箱出し調剤とピッキングマシンによる薬剤師業務の効率化、医薬品の購入・供給などを体験）、②OTC医薬品や処方解析等の調査（薬局内で疑問点を自ら見つけ、グループ内で考えをまとめ、アッセンハイマー慶子先生とディスカッション）、③ラボでの調合（ハーブティーやハンドクリームなどをレシピに基づいて調製）、といったドイツの薬局での業務をローテーションで行いました。

学生たちは、日々の業務の中で感じた薬局業務や調剤業務の疑問点について、アッセンハイマー慶子先

生と熱心にディスカッションをしていました。また、市販されている二日酔いの薬の成分を調べ、それらの成分を購入し、実際に自分たちで二日酔いの飲み薬を調製しました。その際、ドイツの薬剤師は購入した各成分を使用する前に純度確認することが義務付けられていることに学生たちは驚いていました。これら薬局業務以外にも、テュービンゲン大学薬学部やテュービンゲン大学附属病院薬局の見学、Dr. Russ先生（産婦人科医）やDr. Baur先生（総合医）とのディスカッションを通して、日本とドイツの医療体制や制度の違いを学び、先生方に熱心に質問していました。いずれの先生からも、「日本の薬学生は勉強熱心で優秀だ。ドイツの薬剤師・薬学生も見習わなければならない。」といった感想をいただきました。約10日間の短い研修期間でしたが、学生の満足度は非常に高く、日本での実務実習で得られた体験とはまた違った忘れられない貴重な体験になったと思います。本研修に参加した学生が将来、日本にとどまらず世界を相手にグローバルに活躍できる人材になることを期待しています。

最後になりましたが、本研修にあたり、我々に対しドイツ滞在中の日常生活のサポートからドイツの薬局業務・薬剤師としての在り方について懇切丁寧、熱心にご指導下さったアッセンハイマー慶子先生始め、セントラル薬局スタッフの皆様はこの誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。

薬品分析学分野 教授 武上 茂彦



研修終了時の集合写真



患者対応の様子

■薬品物理化学分野 5年次生 服部 恵美

ドイツではどのように薬局薬剤師が地域医療に貢献しているか、現地で学んだ日本との違いについて紹介します。①ドイツの薬局は非営利である。チェーン店経営が許可されておらず、近隣の薬局が連携し夜間営業を分担するなど患者第一の経営が行われています。②かかりつけ薬局の普及。3つ以上の医療機関にかかる患者の88%がかかりつけ薬局を利用しています。③ドラッグストアと調剤薬局の中間の規模と品揃え。医薬品だけでなく化粧品やホームケア用品まで扱い、地域住民の生活を支えています。④業務の効率化。PTA（薬学技術アシスタント）やピッキングマシンの活用、箱出し調剤により、患者にとっては待ち時間が無く、薬剤師にとっては服薬指導に注力できる医薬品の受け渡しを実現しています。

このように利益の追求や雑務に追われることなく、薬学・医学・科学の知識を持って薬剤師の職能を十分に発揮し、地域住民の健康を支える薬剤師の姿を見ることができました。それでは日本はどうか、という問いが生まれますが、日本には患者に合わせた一包化や剤形変更、症状に合わせた計数調剤、薬歴の管理など、ドイツでは行われていない患者様個人に合わせたオーダーメイドの医療を提供していることが分かり、ドイツの薬剤師の方々にも感心していただける場面がありました。一方で、時間のかかる調剤や、地域を見ることなく本社の指示で売られる健康食品、薬剤師の仕事への理解の不足など、薬剤師が地域住民に頼

■代謝分析学分野 5年次生 満田 春香

薬局での研修の他にも、開業医との懇談や、病院薬局・大学内の見学など、たくさんの貴重な経験を行うことができました。

医師との懇談では、ドイツ医療のメリットとデメリットや薬剤師に対するイメージ等伺いました。休診時には薬局で患者の対応をするなど、医師と薬局の間で強い信頼関係が築かれており、良い連携がとられているように感じました。アッセンハイマー慶子先生に通訳していただきながら、時間の許す限り議論を重ね、ドイツの医療についてより深く理解することができたと思います。インターネット上で知ることができるとありますが、実際に足を運び、自分の目で見て聞くことの大切さを実感しました。

研修期間中には休日もあり、シュトゥットガルトに移動して自由に過ごすことができました。地元のサッ



病院薬局内の見学

※学年は参加当時のもので掲載しています。

られるための弊害が多いことも分かりました。

研修を通して、日本とドイツではどちらの薬局が優れているか、一概に答えることはできずどちらも一長一短であるというのが私の個人的意見ですが、日本とは異なる体制で活躍される薬剤師の姿を見ることで、研修初日にアッセンハイマー慶子先生がおっしゃった「薬剤師は街の科学者である」という言葉の意味について理解を深めると同時に、将来薬剤師免許を持つ者として「正しい薬学知識とエビデンスを持って人々を健康に導きたい」と強く思う機会となりました。そのために、医療制度の改正や今後薬局のあるべき姿について考え仲間と議論する、そんな研修となりました。



ディスカッションの様子



広い薬局内にて

カーチームの試合を観戦したり、ベンツミュージアムに行ったり、大きなジョッキに入ったビールを飲んだり、非常に充実した休日を過ごしました。ヨーロッパでのサッカー観戦は私の夢だったため、スタジアムに入ったときはかなりテンションが上がりました。スタジアムの盛り上がりは予想以上で、サッカーにあまり興味がない友人も一緒に楽しめたのも良かったです。

また、研修中は運良くカーニバルの期間であったため、仮装した人が薬局内に入ってきてみんなで歌ったり、研修の合間にパレードを見に行ったりできました。現地の方と触れ合える良い機会となり、とても素敵な思い出になりました。



パレードの様子

学外から電子リソースを利用するには ～リモートアクセス～

図書館

自宅や出張先からでも電子ジャーナルやデータベースを利用したいと思ったことはありませんか？

全学休校措置が続いたことで、図書館にもお問い合わせが多く寄せられ、需要の高さがうかがえると同時に意外と知られていないリモートアクセス。利用できる電子リソースは限られますが、利用率が大変高いElsevier社の電子ジャーナル“Science Direct”および、科学・技術・医学・社会科学・人文科学の全分野の世界の研究成果を提供する包括的なデータベース“Scopus”、Springer Nature社の学術コンテンツ“Springer Link”、電子ブック“Maruzen eBook Library”はその対象となっています。

本学職員、学生の皆様は、大学より発行されたアドレスで登録、または学内の端末からアカウントを作成することで学外からでも学内環境と同様に論文の閲覧や文献検索が可能です。なお、アカウントは出版社別に取得する必要がありますが、アラート機能や検索式の保存等の機能が利用できるものもあり、大変便利です。登録方法は図書館ホームページ>電子ジャーナル・電子ブックのページにてご案内、また、館内にもパスファインダーをご用意しています。在宅学習・研究を充実させるためにも、ぜひ、この機会にご登録ください。



本学図書館の開館日程についてはホームページをご覧ください。

<https://www.kyoto-phu.ac.jp/library/>



卒業生からのメッセージ

Column.

知識のクラウド化

こしの ゆうき
越野 裕貴



2018年 学部卒業
(薬品化学分野)

株式会社ペプチド研究所
製造部 合成室
研究員

みなさん、㈱ペプチド研究所をご存じですか？ほとんどの方は初耳でしょう。しかし、薬学生であれば、Angiotensin II、Oxytocin、Insulinといったペプチドは知っているはずですよ。当社はその名前の通り、ペプチドを化学合成し販売しています。

私は2018年に入社して以来、午前中は「ペプチド合成」、午後からも「ペプチド合成」といったスケジュールで仕事をしています。扱う化合物は変わりましたが、研究室時代と同じくひたすら有機合成を行っています。おそらく、卒業後に私と同じような仕事に就かれる方は一学年に数人程度だと思いますので、ここで私の仕事の詳細をダラダラ綴っても役に立つ方はそうそう出てこないでしょう。

そこで、フワッとした内容になってしまうのですが、働く上で私が必要だと感じるもののうち、どな

たにも当てはまりそうな話をしようと思います。

みなさんが普段、調べものをする機会は何ほどの程度あるのでしょうか。今の大学生であれば、生活の中で困りごとが出てきたときはスマホですぐさま調べていることでしょうか。また、研究活動に行き詰った際には、先輩や先生方に相談しているはずですが、私はこの、普段から何気なく行っている「知識を取りに行く行為」こそ、働くうえで最も大切であり、習慣化して磨かなければならないと考えています。既に知識が豊富であることも、もちろん素晴らしいことですが、「分からない」に直面した際にすぐに調べて対策がとれることを重要視しています。私生活や研究活動の中で、自分が困ったと感じる場面というのは、過去に他人が同じように困り乗り越えていることが往々にしてあります。そのため、既にインターネットに解決策が載っていたり、先輩方が対応策を持ち合わせている場合が多いです。そのため、自分で考えるよりも、すでにある答えを探しに行ったほうがはるかに効率的です。

薬学部ではたった6年間しか学ばせませんし、その学びも受け身なことがほとんどです。それに比べ、卒業後は数十年と働く方がほとんどでしょう。どのような進路に進まれたとしても、卒業までに得た知識・経験だけで通用するとは到底思えません。必要な時に必要な分の知識をすぐさま引き出せることが大切ではないでしょうか。



“第2話 きつね たぬき むじな”の続編ではあるが、ネタ切れしたわけではない。第14話でKYを感じて取り下げた稿である。COVID-19禍でこんなことを掲載するのもKY精神に反すると感じたが、「こんなときだからこそ」と励まされての“いたち”発見の感涙第15話▲「いたち見ゆとの報に接し両目は直ちに覚醒これを見逃さんとす。本日脳天朦朧なれども視力高し」(東郷さん、秋山さん、御免なさい)▲“いたち”は鼯と書くらしい。なんでねずみが由を背負っているのか、そんなことは知らない。ちなみにモモンガは“ももんが”の音が漂いそうな“鼯鼠”だそうである。そんなことはどうでもいい。私の居住地近くではモディリアーニの女性を横にしたような姿で谷川の清流の如く車の前を横切ることがある。大阪で育ったころ、天井裏の軽やかな足音で「ああ、いたちがねずみ追いかけて」と。車一台で“ネズミ捕り”は満杯にはならんが、いたち一匹で金網製のねずみ捕りがいっぱいになる。そんな大きさである▲2018年、大阪のうどん屋さんを報道する番組(名は忘却の彼方)で“黄そば”なる品書き短冊。出演のおねえちゃん「きいそばやん、“いたち”とも言うねん」。そうさ、きそばでは生そばになり世情は混乱、小さい“い”がつく“きいそば”は関西文化の伝承の表音である。それを賛美するよりもなによりも“むじな(第2話)”に続いての新種“いたち”の発見、歓喜の甘嶋▲中華麺がうどん出汁に浸っている。そう言うたら子供の頃に食べたことはある。けど、“いたち”なるは初耳。それにしてもうどん出汁で中華麺、はなまるの日中友好、いや、いいいや、中華麺の侵入でうどんが放り出された不穏現象かも。麺と出汁でつぎに気になるは添え物。“なると・しなちく”ペアだったか、はたまた“かまぼこ・ねぎ”ペアか、番組ではよく分からなかった。こんなことを書くのなら、子供の頃の記憶層にピン留めするのだった▲「文楽は天ぷらうどん、太夫、三味線と人形が揃って味わい深いうどんの完成」(第9話)ならば、“いたち”は宮川左近ショーか、横山ホットブラザーズか、そういやあ、宮川左近ショーの三味線弾き、いたちに似てたなあ、どんぐり橋の「蛸長」の先代もよう似てた▲きいそばと発音するとは言え、“黄そば”という名では捻りもなければ落ちもない。なんの変哲もないポー玉では江夏豊を生んだ大阪の沽券にかかわる。きつね、たぬきと来たら、やっぱり“いたち”▲混鈍から混沌として饅頭に至り、日出る国で四種に分かれ、味はそんなものの“いたち”は“むじな”とともに淘汰の運命を辿りつつ、同じ穴属の進化系統樹が描かれる

【後記】淘汰の運命という早計な裁断を下してしまった。和風出汁の亜種がJR姫路駅ホーム(NHKニュース 2019.8.18)に、蕎麦出汁のキーシマが丸太町(『予約一、角野卓造でございます。京都編』)に生息するそうな



あずま さき

■ 3年次生 東 咲希

発展途上国の医療は日本とどう違うのか？薬剤師の役割に差はあるのか？自分の目で見てみたいという思いから、2019年9月に6日間カンボジアへボランティアに行きました。

私は2年次生の頃にミャンマーでの医療ボランティアを経験しており、ミャンマーでは発展途上国の厳しい医療の現状、日本の衛生環境や医療水準の高さを改めて感じました。しかしミャンマーの病院では薬剤師がいなかったため、今回カンボジアでは主に薬剤師の仕事をメインに手伝わせていただきました。現地の薬剤師の基本的な仕事について日本とあまり差は感じませんでしたが、薬剤管理がメインで服薬指導など患者とコミュニケーションを取るような仕事はまだまだ行き届いていないという印象を受けました。薬剤師の仕事で一番衝撃的だったのは、抗がん剤の調製です。被ばくの危険性があるため本来は安全キャビネットで行う必要がありますが、私がボランティアをした病院では高価な安全キャビネットは導入されておらず、換気された小部屋でガウンを着るのみで調製されていました。



現地で薬剤師の仕事を体験しました

カンボジアでは、1970年代のポルポト政権時に医療者や教師などの知識人が大虐殺された歴史があ

り、医療従事者が激減したことで医療の質が落ちました。これにより国民の医療に対する不信感が募り、いまだに科学的根拠のない民間療法が根付いています。そのため、せっかく病院に来て正しい医療を受けてくれなかったり、そもそも病院に来てくれないという現実があります。

カンボジアに行く前は、まだ医療資格を持たない自分が発展途上国でできることは何かなど、自分が貢献できることばかり考えがちでした。しかし今回、実際にポルポト政権時代拷問や虐殺が行われた場所であるキリングフィールドやトゥールスレンに行き、カンボジアの歴史背景から学ぶことで、カンボジアで医療ボランティアをする意義や、私たちが急に現地に行っても国際医療ができる環境が整っていることへの有難さなども学ぶことができました。

今回参加したNPO法人ジャパンハートでは、ミャンマーやカンボジアでの国際医療ボランティアをはじめとして様々な活動を行っています。現地に行ってみなければわからないことや、学生の自分にもできることがたくさんあることを身に染みて感じることができました。みなさんもぜひ一度、現地で発展途上国の医療の現状を体感してみてください。



カンボジアの子どものたちと共に

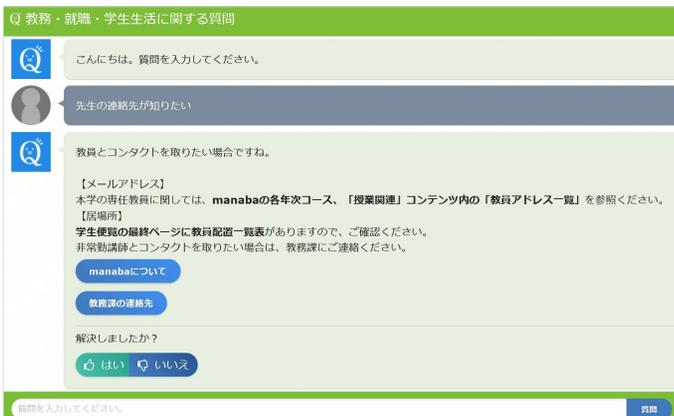
※学年は参加当時のもので掲載しています。

NEWS

AIの活用で在学生、受験生の皆さんを24時間サポートします！

企画・広報課

2020年6月から、本学では在学生向けのオンライン自動応答サービス「AI-Q (アイキュー)」の提供を開始しました。「AI-Q」の本学学生用Webサイトにアクセスし、質問を入力するとAIチャットボットが自動で回答します。また、あわせて受験生向けにも、公式LINEアカウントを通して受験に関する質問や相談に自動で回答するサービスの提供もスタートしました。



新型コロナウイルス感染拡大の影響により、大学への入構や対面での入試関連イベント等が制限される中、24時間365日、いつでも問い合わせに対応できるようにすることで、在学生や受験生の皆さんの疑問や不安の解決に繋がればと考えています。

AIチャットボットは様々な質問とフィードバックによって成長していくため、多くの方々にご利用いただき評価やコメントをいただくことで、精度が高まり、より便利なサービスとなっていきます。在学生の皆さんはmanaba掲示板(学生のみ閲覧可能)に掲載しているURLから「AI-Q」にアクセスできますので、ぜひ積極的に活用してください。

受験生向けの公式LINEアカウントは右記QRコード(受験生サイト)から登録可能です。



1. 入学定員・募集人員

学部	学科	入学定員
薬学部	薬学科	360名

2. 募集人員・出願資格

	学校推薦型選抜		一般選抜		
	指定校制	一般公募制	A方式 (共通テスト前期)	B方式 (本学独自)	C方式 (共通テスト後期)
募集人員	50名	80名	45名	180名	5名
出願資格	高等学校長へ通知	2021年3月卒業見込者及び 2020年3月卒業生 ^{※1} で、学 習成績の状況3.2以上。	2021年3月卒業見込者及び 既卒者。	2021年3月卒業見込者及び 既卒者。	2021年3月卒業見込者及び 既卒者。

※1 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2020年3月に修了した者、及び2020年4月以降2021年3月末までに修了または修了見込の者を含む。

3. 選抜日程等

	学校推薦型選抜		一般選抜		
	指定校制	一般公募制	A方式 (共通テスト前期)	B方式 (本学独自)	C方式 (共通テスト後期)
出願期間	2020年11月2日(月) ～2020年11月10日(火) 必着	2020年11月2日(月) ～2020年11月10日(火) 当日消印有効	2021年1月6日(水) ～2021年1月15日(金) 当日消印有効	2021年1月6日(水) ～2021年1月22日(金) 当日消印有効	2021年2月22日(月) ～2021年3月8日(月) 当日消印有効
試験日	2020年11月16日(月)	2020年11月21日(土)	2021年1月16日(土) 2021年1月17日(日)	2021年2月3日(水)	2021年1月16日(土) 2021年1月17日(日)
合格発表日	2020年12月1日(火)		2021年2月16日(火)		2021年3月15日(月)
入学手続 期限	2020年12月11日(金) 必着 入学金・授業料(前期分)納付期限 入学手続書類等提出期限		2021年2月22日(月) 入学金納付期限		2021年3月22日(月) 入学金納付期限
			2021年3月22日(月) 必着 授業料(前期分)納付期限 入学手続書類等提出期限		

4. 検査・試験項目等

学校推薦型選抜(指定校制)
面接・調査書を基に総合的に判定する。
試験場：京都薬科大学キャンパス

学校推薦型選抜(一般公募制)	配点
適性検査Ⅰ：英語 [コミュニケーション英語Ⅰ, コミュニケーション英語Ⅱ, コミュニケーション英語Ⅲ, 英語表現Ⅰ, 英語表現Ⅱ]	100
適性検査Ⅱ：化学 [化学基礎, 化学]	100
面接	40
調査書 (国語と数学の学習成績の状況の合計×2)	20
ただし、一定基準に達しない検査項目があれば、不合格になることがある。	
試験場：京都薬科大学キャンパス	

一般選抜A方式(共通テスト前期)		配点
数学	数学Ⅰ・数学A, 数学Ⅱ・数学B	200
外国語	英語	200 ^{※2}
国語	国語 [近代以降の文章のみ]	100
理科	化学 [必須], 物理・生物から1科目 [選択]	200
試験場：大学入試センターが指定(個別試験はなし)		

※2 リーディングとリスニングの合計点を200点満点に換算し素点とする。
(リーディング160点満点、リスニング40点満点)

一般選抜B方式		配点
数学	数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学A, 数学B [数列, ベクトル]	200
外国語	英語 [コミュニケーション英語Ⅰ, コミュニケーション英語Ⅱ, コミュニケーション英語Ⅲ, 英語表現Ⅰ, 英語表現Ⅱ]	200
理科	化学基礎, 化学	200
試験場：京都薬科大学キャンパス, 大阪国際交流センター		

一般選抜C方式(共通テスト後期)		配点
理科	化学	100
数学	数学Ⅰ・数学A, 数学Ⅱ・数学B	100 ^{※3}
調査書		15 ^{※4}
志望理由書		15
試験場：大学入試センターが指定(個別試験はなし)		

※3 200点満点を100点満点に換算し素点とする。

※4 学習成績の状況×3(小数点以下第1位を四捨五入)を素点とする。

問合せ先：京都薬科大学 入試課 Tel 075-595-4678 / FAX 075-583-2232 /HP <https://www.kyoto-phu.ac.jp>

	薬学専攻 博士課程(4年制)	薬科学専攻 博士後期課程(3年制)	備 考
募集人員	(一般入試、社会人入試) 10名	(一般入試、社会人入試) 2名	
募集分野等	(募集分野等、協力分野等) 26分野等	(募集分野等、協力分野等) 16分野等	協力分野においても研究指導を受ける事ができる
出願資格	(1)大学(6年制薬学部)を卒業した者(2021年3月末日までに卒業見込者を含む) (2)外国において学校教育における18年の課程(最終の課程は薬学)を修了した者(2021年3月末日までに修了見込者を含む) (3)大学(4年制薬学部)を卒業後、社会人として大学、官公庁、企業又は病院等において2年以上の実務経験を有し、かつ、薬剤師免許を有している者で、本学大学院における入学資格審査において、第1号の者と同等以上の学力があると認められた者 (4)本学大学院において、個別の入学資格審査により、第1号の者と同等以上の学力があると認められた者	(1)薬学系(薬学、臨床薬学又は薬科学)又は理科系の修士の学位を有する者(2021年3月末日までに当該学位取得見込者を含む) (2)外国において前号と同等の修士の学位に相当する学位を有する者(2021年3月末日までに当該学位取得見込者を含む) (3)大学卒業後、出願時に社会人として大学、官公庁、企業又は病院等において2年以上研究に従事した者で、当該研究の成果等により、本学大学院における入学資格審査において、第1号と同等の修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者 (4)本学大学院において、個別の入学資格審査により、第1号と同等の修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者	<薬学専攻> 募集分野等 薬品製造学分野、薬品分析学分野 代謝分析学分野、衛生化学分野 微生物・感染制御学分野、細胞生物学分野 生化学分野、病態生理学分野 病態生化学分野、薬物治療学分野 臨床薬理学分野、薬理学分野 臨床腫瘍学分野、薬剤学分野 薬物動態学分野、臨床薬学分野 臨床薬剤疫学分野、統合薬科学系 臨床薬学教育研究センター (協力分野等) 薬化学分野、薬品化学分野 生薬学分野、薬品物理化学分野 公衆衛生学分野 放射性同位元素研究センター 共同利用機器センター <薬科学専攻> 募集分野等 薬化学分野、薬品化学分野 生薬学分野、薬品物理化学分野 公衆衛生学分野 放射性同位元素研究センター 共同利用機器センター (協力分野等) 薬品製造学分野、薬品分析学分野 代謝分析学分野、細胞生物学分野 生化学分野、病態生理学分野 薬理学分野、薬剤学分野、統合薬科学系
主な出願書類	(1)入学願書 (2)成績証明書 ^{*1} (3)卒業論文及び卒業論文の要旨(英文可) ^{*2} (4)志願者名票・受験票 (5)出願資格(3)の者は薬剤師免許の写し (6)卒業・修了(見込)証明書 ^{*1} (7)出願資格(2)の者は住民票 ^{*3}	(1)入学願書 (2)成績証明書 ^{*1} (3)修士論文及び修士論文の要旨(英文可) ^{*2} (4)志願者名票・受験票 (5)研究業績録 (6)修了(見込)証明書 ^{*1} (7)出願資格(2)の者は住民票 ^{*3}	※1 本学卒業・修了(見込)者を除く ※2 卒業・修了見込者は卒業研究の概要(2,000字以内)1部(英文可) ※3 学術交流協定大学の卒業(見込)者は大学長等の正式な推薦状で代用可能(任意)。その場合は、入学手続き時に住民票の提出を求める。
関係日程	出願期間	(夏季募集) 2020年7月 3日(金) ~ 2020年7月17日(金) [必着] (冬季募集) 2021年1月 6日(水) ~ 2021年1月13日(水) [必着]	
	試験日	(夏季募集) 2020年8月19日(水) (冬季募集) 2021年1月26日(火)	
	合格発表日	(夏季募集) 2020年8月24日(月) (冬季募集) 2021年1月26日(火)	
	入学手続期限	2021年3月12日(金) 入学金納付期限 授業料前期分納付期限, 入学手続書類提出期限	
選考	専攻に必要な研究能力について、卒業論文またはそれに相当する研究業績のプレゼンテーションを中心に行う。	専攻に必要な研究能力について、修士論文またはそれに相当する研究業績のプレゼンテーションを中心に行う。	

★出願に関する問い合わせ先
 事務局入試課 〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5 TEL075-595-4678

※最新の情報は右記QRコード(本学ホームページ)よりご確認をお願いします。
https://www.kyoto-phu.ac.jp/exam_information/



2020年4月

		一般入試	社会人入試	備考
募集人員		5名		(募集分野等)
		若干名	若干名	薬化学分野、薬品製造学分野
募集分野等		薬科学専攻 16分野等		薬品化学分野、生薬学分野 薬品分析学分野、代謝分析学分野 薬品物理化学分野、公衆衛生学分野 細胞生物学分野、生化学分野 病態生理学分野、薬理学分野 薬剤学分野、統合薬科学系 放射性同位元素研究センター 共同利用機器センター
出願資格		(1) 大学を卒業した者(2021年3月末日までに卒業見込者を含む) (2) 2021年3月末日において大学に3年以上在学し、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められる者 (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者(2021年3月末日までに修了見込者を含む) (4) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者	大学卒業後、出願時に社会人として大学、官公庁、企業又は病院等において1年以上の実務経験を有する者	
主な出願書類		(1) 入学願書 (2) 成績証明書 ^{※1} (3) 志願理由書 (4) 志願者名票・受験票 (5) 出願資格(3)の者は住民票 ^{※2} (6) 卒業(見込)証明書 ^{※1}	(1) 入学願書 (2) 成績証明書 ^{※1} (3) 志願理由書 (4) 志願者名票・受験票 (5) 実務実績書 (6) 卒業証明書 ^{※1}	※1 本学卒業・修了(見込)者を除く ※2 学術交流協定大学の卒業(見込)者は大学長等の正式な推薦状で代用可能(任意)。その場合は、入学手続き時に住民票の提出を求める。
関係日程	出願期間	(夏季募集) 2020年7月3日(金) ~ 2020年7月17日(金) [必着] (冬季募集) 2021年1月14日(木) ~ 2021年1月21日(木) [必着]		
	試験日	(夏季募集) 2020年8月19日(水) (冬季募集) 2021年2月12日(金)		
	合格発表日	(夏季募集) 2020年8月24日(月) (冬季募集) 2021年2月17日(水)		
	入学手続期限	2021年3月12日(金) 入学金納付期限 授業料前期分納付期限, 入学手続書類提出期限		
試験科目	外国語(英語)	4問題から2問題を選択解答 40点(20点×2)	—————	
	薬学専門	I ~ VII系*の16問題から2問題を選択解答 40点(20点×2問題)		* I系 創薬科学系 薬化学分野、薬品製造学分野 薬品化学分野、生薬学分野 II系 分析薬科学系 薬品分析学分野、代謝分析学分野 薬品物理化学分野 III系 生命薬科学系 公衆衛生学分野、細胞生物学分野 生化学分野、病態生理学分野 IV系 病態薬科学系 薬理学分野 V系 医療薬科学系 薬剤学分野 VI系 統合薬科学系 VII系 附属施設 放射性同位元素研究センター 共同利用機器センター
目	小論文他	—————	小論文(一般)小論文(専門)の2課題 成績証明書	
	面接試問	志願理由書を参考に試問	志願理由書・実務実績書を参考に試問	【学識、説明能力、自覚・意欲】

★出願に関する問い合わせ先

事務局入試課 〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5 TEL075-595-4678

※最新の情報は右記QRコード(本学ホームページ)よりご確認をお願いします。

https://www.kyoto-phu.ac.jp/exam_information/



本学研究者の研究資金には、大学から配当される研究費のほか、国などから助成される公的研究費（私学助成金を含む）、公益財団法人や企業からの研究助成寄付金、共同研究・受託研究契約に基づく企業からの研究費などがあります。

公的研究費は、文部科学省をはじめ厚生労働省、日本医療研究開発機構（AMED）などから助成されていますが、その中でも大きな割合を占めるのが、文部科学省所管の「科学研究費助成事業」（略して「科研費」）です。科研費の募集枠は金額によって分類され

ていて、個人で申請するものや複数の研究者で申請するものがあります。また、1人の研究者があまり多くの枠に申請できないように制限も設けられています。

下表には代表者のみ記載して、分担者として共同研究をしている場合は含まれていません。令和2年度は、新規で46件申請して18件が採択されました（新規採択率39.1%）。合計採択件数は56件、令和2年度交付予定総額は100,808千円となっています。

なお、特別研究員奨励費は下表には記載していません。挑戦的研究（萌芽）は現在申請中です。

研究種目	研究代表者	分野名	課題番号	課題名	交付額 (千円)	新規・ 継続
新学術領域	石原 慶一	病態生化学分野	20H05521 A02	ダウン症脳での銅蓄積の責任遺伝子同定と知的障害における役割の解明	2,860	新規
基盤研究(B)	松本 崇宏	公衆衛生学分野	20H03397	がん化学療法抵抗性改善機能に基づく天然由来新規医薬品シーズの開拓	6,630	新規
基盤研究(B)	高田 和幸	統合薬科学系	20H03569	脳内免疫環境変化の解析によるアルツハイマー病の病態解明と治療への応用	4,420	新規
基盤研究(B)	膳見 英正	薬理学分野	19H04473	骨転移の診断・治療の効率化を目指したセラノスティクス型骨標的化ナノ薬物担体の開発	4,160	継続
基盤研究(B)	古田 巧	薬化学分野	18H02554	脂肪酸アルデヒドの直接的不斉交差アルドール反応の新展開	1,950	継続
基盤研究(B)	大石 真也	薬品化学分野	18H02555	生体分子の鏡映変換による医薬品探索技術の開発と応用	5,770	継続
基盤研究(B)	小田 真隆	微生物・感染制御学分野	18H02657	新規水溶性糖脂質の細菌性肺炎制御における有効性とそのメカニズムの解明	2,860	継続
基盤研究(B)	濱 進	薬品物理解化学分野	18H03540	新規ステルス機能素子によるナノ粒子表面改質と癌微小環境制御核酸キャリアーの開発	4,290	継続
基盤研究(B)	斎藤 博幸	薬品物理解化学分野	17H03979	アポリポタンパク質の構造異常によるアミロイド繊維形成の分子機構解明と制御法の開発	3,510	継続
基盤研究(C)	小林 数也	薬品化学分野	20K06953	ヒドロキシプロリンを基盤とする汎用的プロテアーゼ阻害剤設計戦略の開発	1,560	新規
基盤研究(C)	高山健太郎	衛生化学分野	20K06974	1型ニューロメジウム受容体アンタゴニストの創出と2型炎症克服のための創薬基盤構築	1,430	新規
基盤研究(C)	田中 智之	薬理学分野	20K07040	マスト細胞の脱顆粒応答抑制に関わるGPR35の機能解析	1,300	新規
基盤研究(C)	安井 裕之	代謝分析学分野	20K07056	亜鉛要求酵素の活性変動を分子基盤とした炎症性腸疾患の病態解析と新規治療戦略の探索	1,690	新規
基盤研究(C)	秋葉 聡	病態生化学分野	20K07077	NASHの新規治療観点となる細胞種特異的I型PLA2の制御による肝線維化抑制	1,690	新規
基盤研究(C)	加藤 伸一	薬物治療学分野	20K07078	オーファンGタンパク質共役型受容体GPR35の炎症性腸疾患の病態における役割解明	1,170	新規
基盤研究(C)	中村 誠宏	生薬学分野	20K07109	アシクロビルリン酸化酵素制御に基づく薬用植物由来抗単純ヘルペスウイルス薬の開発	1,300	新規
基盤研究(C)	中田 徹男	臨床薬理学分野	20K07300	ストレス抑制物質が脳心腎連関に及ぼす機序の検討	2,080	新規
基盤研究(C)	中田 晋	臨床腫瘍学分野	20K07623	G6CTによる代謝変容が誘導する新規Hedgehog経路活性化機構の解明	1,690	新規
基盤研究(C)	木村 寛之	代謝分析学分野	20K08061	原発性アルドステロン症の核医学検査法の開発	1,690	新規
基盤研究(C)	坂本 尚志	一般教育分野	19K00048	『分析手帖』と『マルクス＝レーニン主義手帖』—60年代フランスにおける学知と革命	1,040	継続
基盤研究(C)	小林 祐輔	薬化学分野	19K06974	医薬品の後期修飾を志向したアミドの選択的分子変換法の開発	1,430	継続
基盤研究(C)	中山 祐治	生化学分野	19K07055	受容体型チロシンキナーゼによる細胞分裂制御機構の解明	1,560	継続
基盤研究(C)	松本 健次郎	薬物治療学分野	19K07109	膵、脳に発現するTRPM8チャネルを標的とした過敏性腸症候群の治療	1,820	継続
基盤研究(C)	藤井 正徳	薬理学分野	19K07333	アトピー性皮膚炎マウスにおける痒み行動増悪の脳内メカニズムの解明	1,430	継続
基盤研究(C)	西村 周泰	統合薬科学系	19K07854	中脳神経回路網の機能再生を目指した新規治療戦略の確立	1,300	継続
基盤研究(C)	戸原 英司	病態生理学分野	19K08826	細胞指向性送達理論に基づくエクソソーム捕捉型核酸医薬による多発性骨髄腫治療の開発	1,560	継続
基盤研究(C)	松村 千佳子	臨床薬学教育研究センター	19K10546	早期から終末期における緩和ケアの質向上をめざした薬学的支援方法の確立	650	継続
基盤研究(C)	武上 茂彦	薬品分析学分野	18K06612	超高感度酵素アッセイシステムの構築を目指した新規脂質ナノ粒子発光デバイスの開発	1,560	継続
基盤研究(C)	藤堂 雅弘	細胞生物学分野	18K06642	膜蛋白質の発現制御を標的とするKSHV分子海賊機構	1,300	継続
基盤研究(C)	齊藤 洋平	生化学分野	18K06672	熱ストレスによるStat3活性化と癌悪性化の可能性	1,560	継続
基盤研究(C)	河下 映里	病態生化学分野	18K06708	脳神経再生の高効率化を目指したプロテアーゼ活性制御による移植細胞の生着性の向上	1,430	継続
基盤研究(C)	伊藤 由生子	薬物動態学分野	18K07675	リキッドバイオプリンによる経腸化学療法の治療最適化システム	780	継続
基盤研究(C)	山本 昌	薬理学分野	18K06803	アルツハイマー型認知症治療を目指したインスリン経鼻投与後の新規脳内送達法の開発	1,300	継続
基盤研究(C)	栄田 敏之	薬物動態学分野	18K06804	SGLT2 阻害剤による重篤な皮膚障害の発症メカニズムの解明と予防/治療法の探索	1,690	継続
基盤研究(C)	石原 慶一	病態生化学分野	18K06940	血管機能異常と炎症亢進に着目したダウン症の脳発達遅延機構の解析	650	継続
基盤研究(C)	村木 優一	臨床薬理学分野	18K09957	情報源に依存せず、簡便に医薬品の使用状況は見える化できるのか？	520	継続
基盤研究(C)	野崎 亜紀子	一般教育分野	17K03331	正義論としての集合的意思決定論	780	継続

研究種目	研究代表者	分野名	課題番号	課題名	交付額 (千円)	新規・ 継続
基盤研究(C)	小島 直人	薬品製造学分野	16K08330	新規抗がん剤の創製を指向したアセトゲニン誘導体のTHF環部分の構造活性相関研究	2,000	継続
若手研究	戸田 侑紀	病態生理学分野	20K17388	骨髄幹細胞のexosome分泌型miRNAを介した低酸素生存適応	1,690	新規
若手研究	鴨志田 剛	微生物・感染制御学分野	20K17475	細菌-宿主相互作用により実験進化した細菌を用いた新視点からの感染症研究	1,820	新規
若手研究	冢瀬 諒	臨床薬剤疫学分野	20K18865	大規模レセプトデータを用いた関節リウマチ治療に伴う悪性腫瘍リスクの明確化	2,470	新規
若手研究	棚橋崇一郎	健康科学分野	20K19656	習慣的な有酸素性運動が動脈硬化の進行を抑制する機序の解明：ADMAに着目して	1,690	新規
若手研究	森下 将輝	薬理学分野	20K20205	ビフィズス菌の糖代謝機構を利用した機能性細胞外小胞の創製とがん免疫療法への応用	1,040	新規
若手研究	浜田 翔平	薬化学分野	19K16327	ニトロキシル型酸化触媒による第二級水酸基選択的酸化反応の開発	1,430	継続
若手研究	地巻 悠吾	臨床薬学教育研究センター	19K16428	数理モデルを用いたインフルエンザの流行と治療法の評価	390	継続
若手研究	峯垣 哲也	臨床薬学分野	19K16459	がん微小環境による抗がん剤耐性メカニズムの変化とその克服法の解明	1,430	継続
若手研究	岸野 亮示	一般教育分野	18K12204	空海の遺志に立ち返る碩学たち：近世後期の「根本説一切有部律」研究	780	継続
若手研究	朝比奈裕子	一般教育分野	18K14337	光感受性ナノボア形成能をもつ人工EBAxタンパク質の構築	910	継続
若手研究	小西 敦子	薬品分析学分野	18K14891	非侵襲的生体成分モニタリングを目指した分子鎖型イオン液体ゲルセンサーの開発	1,170	継続
若手研究	安田 浩之	薬物治療学分野	18K14909	好中球細胞外トラップのDNAメチル化制御機構の解明	608	継続
若手研究	河瀬 真治	薬物動態学分野	18K14963	PK-PDモデルを用いたスペシャルポピュレーションへの抗がん剤至適投与法の確立	910	継続
若手研究	丹羽 里実	薬理学分野	18K14994	前立腺癌の去勢抵抗性獲得におけるカリウムチャネル発現変動の機序解明と臨床応用	650	継続
若手研究	屋木 祐亮	代謝分析学分野	18K15566	前立腺がん患者に対するRadio-Theranostics用分子プローブの開発	1,300	継続
若手研究	有光 健治	代謝分析学分野	18K15608	膵β細胞のインスリン分泌障害を早期に検出する分子イメージングプローブの開発	520	継続
挑戦的研究 (萌芽)	関根 勇一	細胞生物学分野	19K22777	神経シナプス接着分子の異常を基盤とした育児放棄・虐待の分子機構の解明	3,380	継続
挑戦的研究 (萌芽)	舘見 英正	薬理学分野	19K22982	アミノ酸クラスターに基づく腎臓のハイブリッドDDSによる腎臓診断・治療の開発	2,210	継続

News 京薬会だより

<令和2年度京薬会活動がスタート>

京薬会は、卒業生、在学生、教職員を会員とする同窓会組織です。新入生の皆さんは、新たに学生会員となっておりました。新型コロナウイルスのため総会は中止となりましたが代議員の書面承認を経て、令和2年度の事業がスタートしました。また、役員改選が行われ西野武志会長が再任（4期目）されました。

京薬会では大学・学生への支援事業として、奨学金寄附や白衣授与、学祭や駅伝大会への協賛助成、優秀クラブ表彰や京薬グッズの考案・頒布などを行っています。また、創立136年の歴史を刻む京薬大や同窓会を紹介する愛学躬行歴史資料室を育心館3Fに公開しています。1年次生をはじめ、まだ歴史資料室を見学したことのない学生の皆さんは是非お越しください。

詳しくはホームページをご覧ください。 (<https://www.kpu-aa.com>)



<新作グッズのご案内>

新しく2種のボールペンが誕生しました。

ユニボール（3色）は消せるボールペンで、シャンパンゴールドとピンク、ジェットストリーム（2色+シャープペンシル）は、ネイビーとレッドです。

売店ポピーで購入できます。

News お知らせ

■ 2020年度 入学宣誓式の中止について

4月1日に予定していました2020年度入学宣誓式は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から「中止」といたしました。本式典は、新入生の皆さんをはじめ、ご家族、ご関係の皆様、また、本学職員にとりましても、新たなスタートを切るための重要な式典と位置付けておりました。そのため、出席者の制限、プログラムの短縮等、規模を縮小して開催する方向で検討を重ねましたが、感染拡大防止、新入生の安全確保を最優先し、中止という苦渋の決断に至りました。

入学宣誓式は中止としましたが、当日、今後の学事（特にオンデマンド学習に必要なIDの交付）等に必要な情報提供を行うため、「新入生オリエンテーション」を開催しました。新入生を10グループに分け、「3密」を回避するなど、感染拡大防止対策を行ったうえでの開催としました。

■「日本薬学会第140年会」において、本学の学生2名が講演ハイライトに選出されました

日本薬学会第140年会は、2020年3月25日（水）～28日（土）に国立京都国際会館を主要な会場として開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催中止となりました。

そのため、本年会はプログラム集の発行とWeb要旨の公開をもって成立となり、ハイライト要旨がWeb公開されることとなりました。

氏名：衛生化学分野 5年次生 浅田 あゆみ

演題：炎症性腸疾患はunpredictable chronic mild stress低感受性マウスにおいてうつ様行動を誘発する

演者：浅田あゆみ、鈴木杏、河本実季、大嶋廉之、宮永佳代、長澤一樹

氏名：薬剤学分野 博士課程4年次生 内藤 千尋

演題：ヒトiPS細胞由来三次元培養皮膚を用いた薬物の経皮吸収性及び毒性の評価

演者：内藤千尋¹、山口朋子²、勝見英正¹、木村思瑠¹、亀井咲知¹、森下将輝¹、坂根稔康³、川端健二²、山本 昌¹（¹京都薬大、²医薬基盤・健康・栄養研究所 幹細胞制御プロジェクト、³神戸薬大）

※学年は受賞当時のもので掲載しています。

■生薬学分野の松田久司教授が学術貢献賞を受賞しました

2020年3月25日に京都で開催された「日本薬学会」において、生薬学分野の松田久司教授が学術貢献賞を受賞しました。

受賞者：生薬学分野 教授 松田 久司

演題：伝承薬物に含まれる生体機能性分子の薬理学的解明研究



■本学の乾賢一名誉教授が「Highly Cited Researchers 2019」に選ばれました

科学を大きく21分野に分け、それぞれの分野で高被引用論文を閾値以上発表した研究者を表彰するクラリベイト・アナリティクスの「Highly Cited Researchers 2019」に本学の乾賢一名誉教授が選ばれました。

※2019年は世界60か国で約6216名、日本は98名

Pharmacology and Toxicolog 名誉教授 乾 賢一

詳細は<https://recognition.webofsciencegroup.com/awards/highly-cited/2019/>



■「私立大学研究ブランディング事業」本学担当教員共著の『Handbook of In Vivo Chemistry in Mice: From Lab to Living System』（Wiley-VCH）が出版されました。

本学の私立大学研究ブランディング事業実施メンバーである河嶋秀和准教授、木村寛之准教授、長谷川功紀准教授、有光健治助教らが共著者として執筆した『Handbook of In Vivo Chemistry in Mice: From Lab to Living System』（Wiley-VCH）が出版されました。

本書は小動物を用いた実験に関する解説書であり、本学教員のイメージング研究の成果、ラジオセラノステイクス研究への取り組みなどが紹介されています。 ※本学図書館にて貸出可能です。

6章：Single Photon Emission Computed Tomographic Imaging in Live Animals

Yusuke Yagil, Hidekazu Kawashima², Kenji Arimitsu¹, Koki Hasegawa³, Hiroyuki Kimura¹

¹ Kyoto Pharmaceutical University, Department of Analytical and Bioinorganic Chemistry,

² Kyoto Pharmaceutical University, Radioisotope Research Center,

³ Kyoto Pharmaceutical University, Center for Instrumental Analysis,

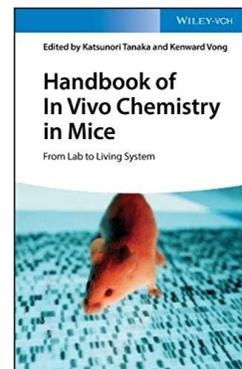
7章：Radiotherapeutic Applications

Koki Hasegawa¹, Hidekazu Kawashima², Yusuke Yagi³, Hiroyuki Kimura³

¹ Kyoto Pharmaceutical University, Center for Instrumental Analysis,

² Kyoto Pharmaceutical University, Radioisotope Research Center,

³ Kyoto Pharmaceutical University, Department of Analytical and Bioinorganic Chemistry,



下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

* 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。

* 敬称略、芳名のみ掲載しております。

* 100万円以上を頂いた方は、愛学館エントランス『京都薬科大学 高額寄附者顕彰銘板』にも掲載させていただきます。

2020年3月～2020年5月にご寄附をお寄せいただいた方々

＜ 卒業生・同期会等（五十音順）＞

天ヶ瀬 紀久子	田中 博義
鎌倉 嘉男	都築 澄子
楠山 龍	中村 隆生

＜ 卒業50周年記念募金（昭和45年卒業生）＞

京都薬科大学昭和45年卒業同窓会一同

＜ 企業・団体・一般＞

株式会社ファーマシィ

＜ 法人役員・評議員・職員等（五十音順）＞

串田 ゆか(評議員) 武田 禮二(前理事長)

(2020年5月31日現在)



KPU NEWS No. 202 2020年7月発行／編集：KPU NEWS編集委員会

発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691(企画・広報課)

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。